

令和3年度 豊島区生活支援体制整備事業

1

地域のささえあいの
仕組みづくり協議会の
運営

2

地域資源データベース
システム (Ayamu) の
運用

3

としま
ベンチプロジェクト

4

広報「つながる地域
(まち) づくり通信」
の発行

5

高齢者の生活支援推進
員(第2層SC)活動支援

6

地域の実態調査と
ネットワークの構築

今年度から高齢者の生活支援推進員(第2層生活支援コーディネーター)配置

地域に密着した
高齢者の生活支援推進員
の活動が始まります!



高齢者の生活支援推進員
地域と連携を取りながら
高齢者の暮らしやすい地域
づくりを推進していきます



ご意見をお寄せください
地域の様々なご意見は裏面の担当圏域の高齢者の
生活支援推進員までお願いします

コロナでお友達同士なかなか会えないので、LINEでおしゃべりしてみたい

近所のお年寄りが少しでも楽しく過ごせるようにサロンをつくりたい

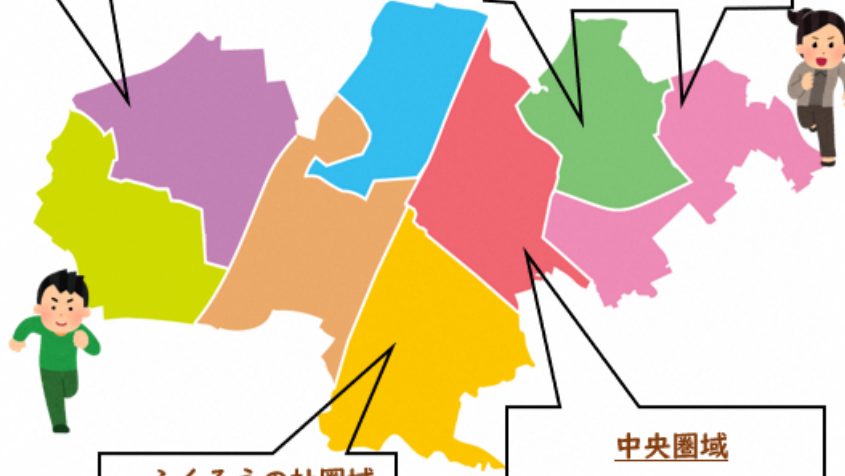
高齢で買い物やゴミ出しが大変

地域のために何かできることはないか

東西南北の4圏域からスタート!

西部圏域
<担当>
NPO法人
ワーカーズコープ
090-6306-7315

菊かおる圏・東部圏域
<担当>
社会福祉法人
豊島区社会福祉事業団
03-5980-0294



ふくろうの杜圏域
<担当>
NPO法人
いきがい安心ジョイフル
結の会
090-8514-0542

中央圏域
<担当>
NPO法人
コミュニティランドスケープ
070-4396-8960

<問い合わせ先>
豊島区 保健福祉部
高齢者福祉課 生活支援体制整備事業グループ
連絡先 03-4566-2435

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

豊島区全域 （第1層）

協議体

地域のささえあいの仕組みづくり協議会 （第1層協議体）

高齢者の生活支援に関わる区全域の共通課題抽出や対応策を検討。区全域での取組や小地域（第2層）での実践につなげる。

第1層生活支援コーディネーター

＜区内全域の地域課題の把握・取組提案＞
地区懇談会や関係機関などから得られた情報等を活用して、第1層協議体と共有し課題提起や課題解決のための取組を提案する。

＜第2層圏域の活動支援＞

第2層生活支援コーディネーターなどと連携・協働しながら、圏域での地域活動や取組などについて支援・助言を行う。 など



第1層協議会等で検討した、課題解決に向けた活動を提案



小地域（第2層）で把握した地域生活課題を共有・検討

区内8つの圏域 （第2層）

第2層生活支援コーディネーター

＜地域課題・生活支援ニーズの把握＞
地区懇談会などの協議の場や、高齢者総合相談センター・CSWなどの関係機関との情報共有などを通じて、高齢者の生活支援に関する課題やニーズを把握する。

＜地域資源の構築＞
高齢者の通いの場やなどの地域資源の構築を行い、地域課題解決に取り組む。

＜担い手の養成・活躍の場の確保＞
高齢者の社会参加を促進・実現するための支援・調整を行う。

など



1.地域のささえあいの仕組みづくり協議会(第1層協議体)の運営について

協議会の委員は、民生委員・児童委員や高齢者クラブ、商店会、金融機関、区民ひろば、銭湯組合、福祉専門学校、介護事業者などからなる11名です。



開催日	主なテーマ	ゲスト	参加者
第1回 令和3年7月9日	公共交通サービス「mobi」の活用について	(株式会社サンシャインシティ) (としま会議主催) (Willer株式会社)	18名
第2回 令和3年11月18日	高齢者のICT活用について	(としま会議主催)	14名

今年度より、会議に第2層生活支援コーディネーターも参加して、委員との顔つなぎとともに、区内全域の課題について把握・検討を行いました。


2.地域資源情報データベースシステム(Ayamu)の運用及び推進について

- ・地域資源の可視化と有効活用
- ・プロジェクトチームを実施し運用 (2019年度運用開始)


掲載する情報は、社会参加や生活支援に関わる団体情報や活動ができる場所（体操や趣味のサークル、ボランティアグループ、サロン等）




地域資源情報データベースシステム
*カシオ計算機株式会社運営の「Ayamu」を活用しています。




高齢者総合相談センター
見守り支援事業担当



生活支援
コーディネーター



社会福祉協議会
CSW



豊島区役所
高齢者福祉課

ささえあいの地域づくりの
ための情報活用

窓口での情報提供



- ★情報は以下の 目的で活用
- ①区民への活動のご紹介
 - ②団体と担い手のマッチング
 - ③区域や圏域別の地域アセスメント

2.地域資源情報データベースシステム(Ayamu)の運用及び推進について

①AyamuPT開催

年2回開催。今年度より、高齢者の生活支援推進員(第2層SC)もPTメンバーとして参加し、運用について検討。

②冊子作成

詳細情報確認、マップでの情報提供など、Ayamu活用につなげるきっかけとして、冊子を作成。

活動・サービス情報 登録数
R2年度:436件(2021年2月)



R3年度:**576**件(公開可:393件)

1年間で...
140件増



3.としまベンチプロジェクト

地域のささえあいの仕組みづくり協議会の委員から、今年度の取り組みについて聞き取りを実施

→ 地域住民が頑張っ実現できるようなことを取り組むべき

→ これまでの議論中で「高齢者が自分の足で外出しやすいように地域にベンチを設置する」

「ベンチを置くことで地域にコミュニティができる」

等の意見をもとにベンチプロジェクトを実施

住宅街や道路沿いで、民家の植え込みの端や縁石、ポールなどに座って休んでいる方を見かけることがあります。不安定な場所に座って、後ろに倒れこんでケガをした高齢者を家に送り届けたという話もよく聞きます。

長時間歩くのがつらいなどの理由で外出を控え引きこもりがちになる高齢者、ちょっと休めると助かる親子連れなどが、ベンチがあると途中で休憩し、安心して外出できます。

また、ベンチを置くことで、そこに小さなコミュニティができ、人が座っていることで地域の防犯にもつながり、活発で暮らしやすいまちになります。



3.としまベンチプロジェクト

①としまベンチプロジェクト活動の流れ(マニュアル)作成。

高田地域でのモデル実施を通して、プロジェクト立ち上げから設置までの流れなどをまとめる。区内でベンチプロジェクトに興味がある方などにお渡しし、地域や状況に合わせた地域活動のサポート資料となった。

としまベンチプロジェクト
活動の流れ

2020.12

豊島区の特徴

- ・日本一の過密都市
- ・活気があり、消滅可能性都市を脱却
- ・一人暮らし高齢者の割合が全国一(75歳以上、郡部除く)
- ・外国人人口が多い(人口の約1割)
- ・企業が多い など

生活支援体制整備事業

住民同士がささえあい、年を重ねても誰もが安心して過ごせる地域づくり、ささえあいの仕組みづくりの事業です。これを実現するために、協議体を設置して協議をすすめています。

豊島区では..

「地域のささえあいの仕組みづくり協議会」(ささえあい協議会)が1層の協議体。

民生委員児童委員協議会・商店街連合会・ワーカーズコープ・浴場組合・シルバー人材センター・豊島区高齢者クラブ・専門学校教員・金融機関・訪問介護ステーションなどからなる委員が、事業の実現について話し合ってきた。

「今まで福祉施設の送迎車両の空き時間を活用した移動の支援等も議論してきたが、地域住民が少し頑張れば実現できることに取り組みたい」(高田地区民生委員児童委員協議会会長)

「福祉専門学校の授業として実際にまち歩きに協力できる」(日本福祉教育専門学校教員)

「ベンチ設置に向けて、関係課へのつなぎや助言などはできる」(シルバー人材センター係長)

という委員の声をもとに、「ベンチの設置」に向けて取り組みを始める。

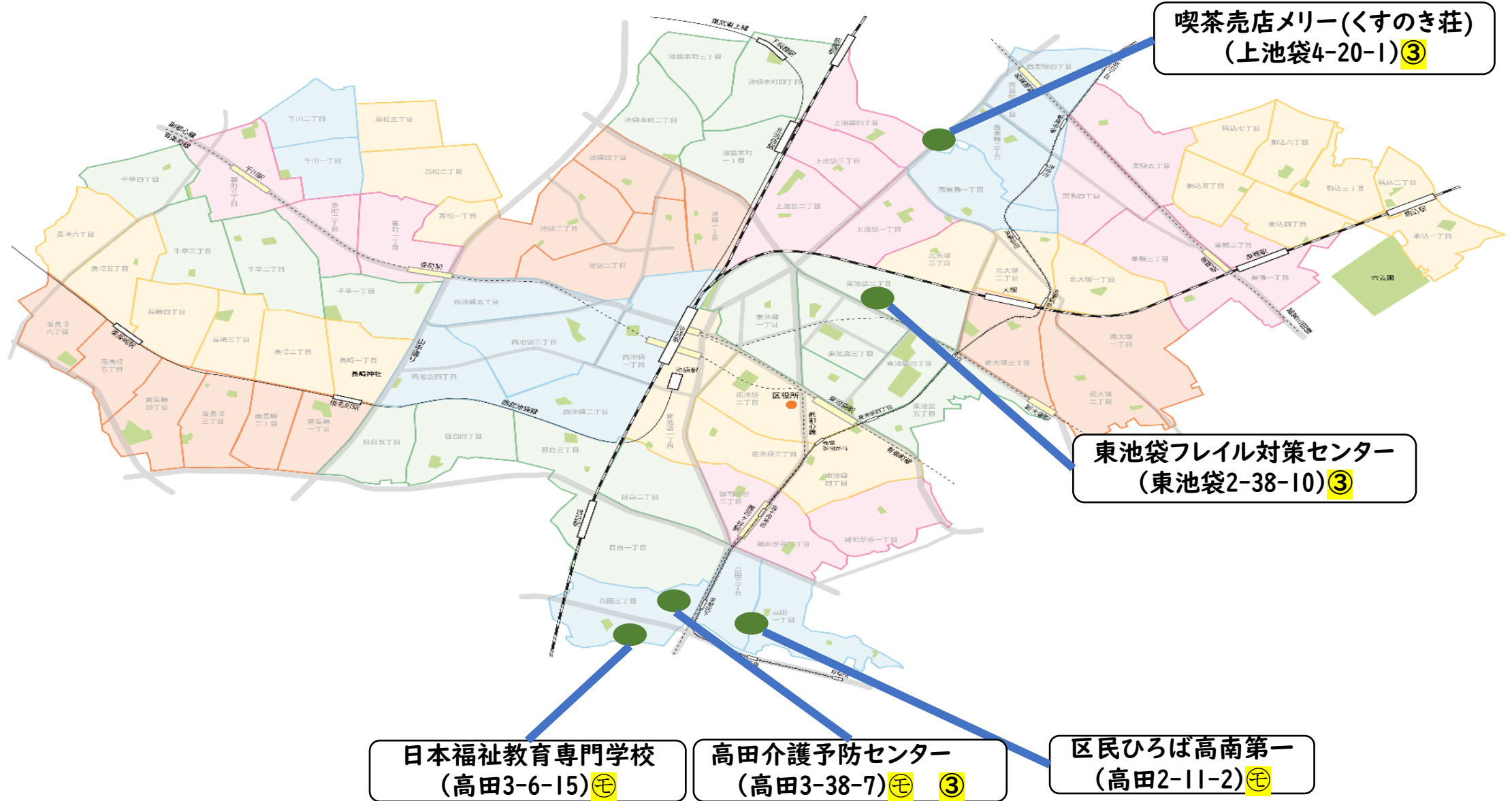
②ステッカー作成。

モデル実施時に参加者でイラスト案を検討し、作成。ステッカーには賠償責任保険を掛け、ベンチプロジェクト参加者にお渡しし、貼ってもらっている。だれでも座れるベンチの可視化にもなっている。



3.としまベンチプロジェクト

区内ベンチプロジェクトマップ ㊦：モデル ㊸：R3



5. 高齢者の生活支援推進員(第2層SC)活動支援

今年度から配置された第2層生活支援コーディネーターと、定例会などで顔を合わせる機会を設け、関係構築と活動に対する助言等の支援を行いました。

① 高齢者の生活支援推進員同士の定例会実施と地区定例会参加

- ・毎月の定例会で、活動報告と情報交換を実施。活動の進め方の検討や課題、悩みを共有。
- ・第2層SC主催の地区定例会に参加。第2層圏域における活動状況や地域課題を把握。

② 育成研修実施

<前期(4月、5月実施)>

- ・生活支援体制整備事業と生活支援コーディネーターの役割について
- ・地域アセスメント、地域資源の充実・開発について

<後期(1月実施)>

- ・ICFシートを用いた事例検討、地域資源の充実・開発(グループワーク)

③ 活動支援

- ・北区的生活支援コーディネーターとの情報交換会開催(区境の社会資源共有)
- ・町会長など地域の関係者への顔合わせ、あいさつの調整や同行
- ・社会資源調査、視察同行

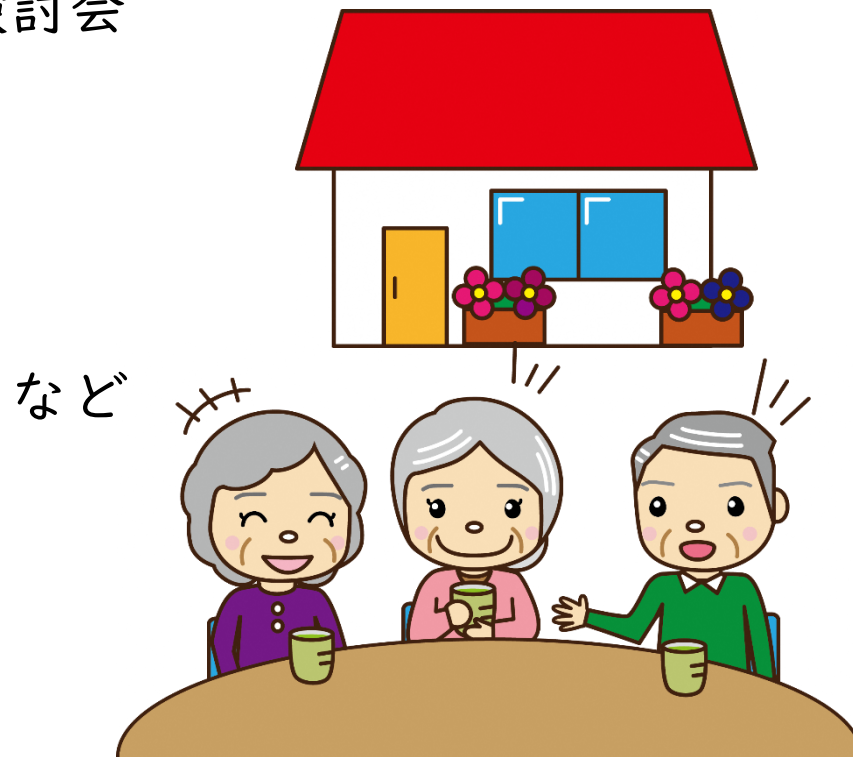
6.地域の実態調査とネットワークの構築

地域の各種会議への参加

- ・ 地区懇談会
- ・ 自立支援地域ケア会議（元気はつらつ報告会）
- ・ 地域ケア会議全体会議の開催に向けた検討会
- ・ 地域ケア会議全体会議
- ・ まちづくり検討会議
- ・ 第2層SC定例会

地域資源開発・検討

- ・ マチノオト（地域活動団体）
- ・ 空き家を活用した茶話会
など



6. 地域の実態調査とネットワークの構築

① 高齢者の移動支援

区内の社会福祉法人、民生委員児童委員、町会、高齢者の生活支援推進員（第2層SC）、高齢者福祉課で「さあ!いこうプロジェクト」を立上げ。モデル実施に向けて協議を重ね、2回実施。

第1回目の様子



深川めし、食べたかったの!!



何を買おうかしら。
コロナだったから車に
乗るだけで気分転換
だわ。



第2回目の様子



近くにスーパーがないからありがたい。
行きも帰りもみんなとおしゃべりも楽しい!

10年ぶりにこのスーパーに来れたわ。



車で来れたからお米買っちゃったよ!



6. 地域の実態調査とネットワークの構築

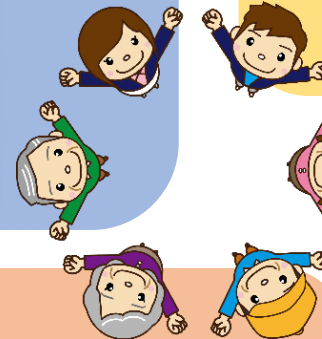
② 介護予防リーダーと高齢者の生活支援推進員の交流会実施(担い手への支援)

地域の担い手である介護予防リーダーへのアプローチとして企画。各地域の第2層生活支援コーディネーターとつながりを作った。



菊・東部圏域

- ・担い手不足が課題となっている。
- ・新しい介護予防リーダーが見学を通して活動協力してくれないか。
- ・場所の確保が難しい。



中央・いけよん圏域

- ・高齢者の居場所が必要。
- ・スマートフォン操作を知る場が欲しい。
- ・若者(学生など)と協力して何かできないか。
- ・今後も地域の情報交換する場が必要。



アトリエ・西部圏域

- ・コロナ禍で活動するのは怖かったが、感染予防をすれば実施していることを知り、少し活動開始に前向きになれた。
- ・居場所は少ないが、地域で使っても良いと言っている方もいる。



ふくろう・医師会圏域

- ・音読活動が介護予防になる。
- ・高齢者だけでなく居場所、社会参加。
- ・活動を始めるきっかけとして今行っている活動と一緒に参加する。



地域ごとのグループで意見交換ができました!
これをきっかけに、**第2層レベルでの交流会が始まった圏域も!!**